

通信

東京だより



田中 生

肅啓、大正十四年も今こゝ二旬にして暮れむとし、いつもながらの歳末氣分に道行く人の足も何となく忙はしく見受けられ候、歳を送るに方り年中ありし事どもを回想致候得共とり立て是ぞと申べき何物もなき平凡な歳なりしを今更の如くに追想致候、政憲兩派の聯立破れてより政界には常ならざる波紋を觀ること、存候得共遂に疑問の裡に越年すること、相成政界の情氣寒心に不堪候。

政友會と本黨との合同は困難にして假令合同を觀る能は

ずとするも其の所見を一致するに於ては黨人の好むにせよ好まざるにせよ議會の解散は避くべからざる筋途に有之候得共、茲に政府與黨たと在野黨たとを問はず惱む所のものは解散に依つて普通選舉に直面することに有之、兩者が既往に爲したることは國民の無産者に對し歓迎せられざるもの尠なからず、爲に普選に依つて黨の興廢を卜知することを得ざる狀況なるを以て解散を忌避する傾向有之、憲政會と政友本黨との曖昧なる態度は著しく世人の疑惑を集

め候、併しながら國民は何時まで妥協政治を是認するものに無之候に付解散を當然とするものに御座候、此の如きを以て政府與黨たる憲政會は兎も角とするも在野黨たる兩派は局面の轉換を劃策して解散對策に備へざるべからざるの秋、兩者何れも納り返り居候は兩派に策士なきか寔に不甲斐なきこと、存候。

殊に政憲兩派の間に介在して議會の形勢を左右すべき地位を占めたる政友本黨が穩健着實とは稱するもの、其の男らしからざる態度こそ實に唾棄すべきものに有之候、政黨が其の政策を高調して同志の糾合に力め所謂黨勢の擴張を圖るが爲には其の態度を明かにして公明正大の行動を探るべきは言ふ迄もなきことに有之、吾人は一再ならず之を政友本黨に希望したるにも不拘矢張り其の言ふ所爲す所曖昧にして國民を愚弄するに非ざるかとも被考、總裁自ら地方に遊説して東説西説是れ力むる所あるも其の所説は矢張り不徹底に終り著しく世の批難する處に有之候處、俄然毒素問題とパンフレット問題に胚胎して内紛を暴露し所論の不

徹底なりしも左こそと思はしめ申候、政友會分裂後兩黨の間に其の奥底に縱斷的共通點を有し、在野三年の苦痛は大政友會の恣に爲したる政治行動を夢寢の間にも忘るゝ能はずして、之に懂れ時を得機を捉ふる毎に合同を實現せむことを策する者と分裂當時を追想して覆水盆に返らずとし非合同を唱ふる者とを生じ、是等兩者が行懸りの感情や野心の下に互に抗爭して黨内の統制儘ならざるもの、如く、兩者の一方に聞けば他は離黨すべきの恐有之、爲に有耶無耶の裡に、換言すれば穩健着實の裡に兩者を協定せしめむとする下地あるが故に其の所説も亦不徹底なるを免れざる義と被存候。

合同論者の主張する所に依れば政本共に斷ち切る能はざる脈絡を有し、地方に在りては兩者を區別するものなき狀況なるを以て固より合同の可能性を具備するが故に、何時かは之が合同の實現すべきは當然の理なりと爲し、解散さるべき議會に直面して政府與黨の機先を制し解散對策を講ずべきのとき、眞に在野黨として活動せむには今合同する

一途あるのみと申居候、言ふ所一理なきに非ざるも今俄に合同するものとせば、分裂當時に力説したる大義名分は滅却され、爲に公黨としての信用は地に墜つべく大政黨の專恣に憧憬し内閣倒潰の一時的手段として徒に政權慾にかられ爲したる卑劣行爲と評せらるゝも辯解の辭なきこと、可相成、國民の斷じて賛せざる處に御座候、政友會の一部策士亦之に對應して合同を策し之が爲に兩總裁の竝立困難なるときは總裁を取換ふるも尙辭せずと爲すが如き形勢に在るを以て、穩健着實の見地よりして合同論者の行動と主張とを愛黨心の發露と觀るが如きは大なる誤に非ざるかと被存候、近く兩者は互讓して兎も角落着したる模様候に候得共、兩者の溝渠は根底より艾除されたるものと觀る能はず此後何かにつけ此暗闘の續くべきは往時に於ける同志會の經過に徴しても明かなる義と存候。

合同の議國民の賛成する所に非ず公黨として採るべき手段に非ずとせば、是等合同論者を一掃して眞の本黨を構成することが本黨の此際採るべき唯一の手段と被存候、併し

ながら此の如き手段に出ずるときは脱黨者を觀るべきは當然のことにして第三黨たるものが更に小數と爲るべきは明かなる所に有之候得共、頭數を維持するが爲に是等異分子を包容し其の統制を圖るが爲に徹底的否な不徹底の態度を保持して解散に遭遇せむか、國民の信望を得るに由なく遂に本黨の根本的基礎を失ふべきに至るは明かに有之、加之是等内紛の存するに於ては憲政會の爲に乗ぜられ、世評に言ふが如く遂に憲政會の傀儡たるに至るべしと存候間吾人は斷乎たる處置を採らむことを切望し第三黨として公明正大に議會の形勢を左右せむことを祈るものに御座候。

既成政黨が與黨たると在野黨たるを問はず生きむが爲に悩みつゝあるときに當り、選舉法の改正に伴ひ當然起るべかりし所謂無產政黨——農民勞働黨の組織企てられ當初は多少の曲折を觀候得共、兎に角準備行爲を終り候は無產者の要求を議會に反映せしむるの手段として吾人の賛成する所に有之候、併しながら此政黨も政友本黨現時の如く相容れざる二個の意見を有する者共が從來の主張に捉はれて

「無産政黨は全國に唯一あるべきもの」との信念の下に集合したるに過ぎずして其の結合の根本に於て大なる誤を包藏致居候、現代社會生活に於て各人の有する人生に對する態度を統一する能はざることに鑑るときは、其の態度の相異よりして政治上に要求すべきものも亦相異なるべきは當然の事に有之、此自然の理に反して單一無産政黨の成立を實現せむとするは、不自然のことを敢て爲さむとするものにして假令一時は成立することあるも永續すべきものに非ずと被考候處、其結黨式を擧ぐべき日に於て内務大臣より突然結社禁止の命令を受け候は吾人の意外と爲したる所に御座候、禁止の理由に至つては當時發表されたる所なるを以て絮説の必要無之、吾人も亦禁止理由の全部に對し賛成するものに無之、殊に不穩分子の加入せることに依つて禁止たるが如きは政黨其のものとの之を構成する個人の思想とを混合するものにして適當ならざる義と存候、其の政綱とする無産者住宅の公給、肥料農具の生産配給に對する勞働者の監督權の要求、義務教育に於ける資本主義的教育の

撤廢、弱小民族に對する不平等條約その他一切の侵略主義的暴壓の撤廢乃至軍備の徹底的縮少と言ふが如きは、現在の社會組織若は國家生活の根本的原因を改革する意味を有するものなるを以て禁止されたるは當然のこと、存候、併しながら普通選舉制度の存する以上は此種政黨の出現は當然のことなるを以て、今回下されたる良教訓に鑑み其の政綱を新にして再度の組織を希望する次第に候得共、之が組織政策も亦現時の社會組織を基礎として決定されることを要すべく、殊に其の創立者たる地位に在るものは徒に言を大にせず我が國民性に立脚して冷靜に理を盡し具體案を得て創立に従事し結黨に付焦慮せざることを肝要と可致候、聞くが如くむば今回の解散命令に關し創立發起人の一部が松村警保局長と會見したる場合に於ても、松村氏をして徒に名を擧げしめたる如きは、叙上の缺陷に基く義と存候に付、吾人の此苦言を容れて大事業の成就に力め既成政黨の無産者に對する無理解を覺醒せむことを切望致候。

大正十五年度政府豫算も各省の要求巨額に達し比較的強固な要求も尠なからざりしを以て財務當局が之を如何に切り盛りするかは吾人の好奇心を煽らしめ候得共、互譲やら總理の妥協勧告に依つて編成を了し候、之に依るときは財務當局の聲明したる標準額十六億圓を突破し在野當時の聲明を知る人は聊か驚きたること、存候、藏相の談として傳へらるゝ所に依れば、從來の意見に則り消極の方針を基礎として之に緊急已むを得ざるものと認めたる北海道拓殖計畫を始めとし河川の改修、健康保險の實施海軍補助艦艇の計畫、司法官の待遇改善、青小年の訓練及航路の補助等は之を認容したるを以て世上に謂ふが如き消極退嬰豫算に非ずとのことに有之候、之を評するものは區々に有之、在野十年消極を唱へたるものが一と度臺閣に列せば從來の主義主張を弊履の如くに捨て鶴的豫算を編成し資本主義的政治を實現せむとするは政治家の信義を失ひたるものなりと言ひ、或は又政黨的感情の下に十五億八百萬圓の豫算を目して放漫政策の下に編成したる豫算なりと極言したる藏相

が、十六億圓を突破する豫算を編成して尙消極なりと言ふが如き又物價政策に向つて全然考慮する所なく却つて物價の値上げを爲したるが如きは往時の意見を撤回したるものと評し批難致居候、吾人は是等双方の意見を批評するの價値を認めず候得共、往昔の豫算數字と對比して其の増加に付批難するが如きは物價單位の騰貴を忘れ、帝都復興豫算の存在を考慮せざるものにして所説の當らざる明白に有之候、吾人は決して十六億圓の突破を難するものに無之、寧ろ必要の費用は何億を計上するも已むべからずと爲すものに有之候得共、唯だ本豫算を通覽して直覺することは已むを得ず現狀維持の下に編み出されたる豫算なることに有之候、従つて温みと奥底なき觀有之財政の心髓に觸れて事業の取捨選擇を爲さざりしもの多く、彼の補助艦艇に關するもの、如き或は北海道拓殖計畫乃至司法官待遇改善の如きは其の根本策を確立せずして、大正十五年度分に就いてのみ之を是認したる如きは、重大なる缺陷と被存吾人の贅せざる處に御座候、他人の爲したる事案に對し批難攻撃する

は易く、自ら其の局に當るに至つて始めて前言を顧み忸怩たらざるものあるは獨り之を憲政會の諸氏に責むべきに非ずと存候、是等は世の所謂政治家が在野のとき言論を恣にして民衆の心裡に迎合せむとするより生ずる通弊に有之、憲政會諸氏の這般の立場に鑑み政友會は勿論本黨の諸氏も亦此轍を踏まざらむことを肝要と可致候。

吾人が前號誌上に於て其の成立を希望し、恐らく理内閣も是に對しては斧鉞を加ふること無きを期したる道路改良費豫算百六十萬圓の増加は否定され、地方開發の目的を以てする自動車道路助成費三百萬圓も亦是認められずして、豫算の編成を觀るに至りしは寔に遺憾とする所に有之候、此結果我が路政の爲にする新年度の事業は皆無と可申此の如きが果して國民の要求に副ふものなるやに關しては吾人一言なき能はざる處に御座候。

内務省土木局員の語る所に依れば、普通道路改良費豫算に在りては増額否定されたる結果、本年度豫算と同一額に依りて經理せざるべからざるを以て一切の新規事業は之を

認むるに由なく、本年度豫算が既に工事の進捗に應ずる能はざる狀況なるに代へ、従前補助を契約したる工事が歲月を経るに従ひ進捗して一層事業と補助とを隔絶せしめ國家の補助政策は其の名あつて實を失ひたるものなりと申居候國道改良事業にして本年度完成したる工事の補助は大正二十三年度に至つて漸く補助を支出し得る程度に有之、軍事上其の他重要な地位を占むる府縣道の改良と六大都市内街路の改良に對しては一切補助を廢止する方針を樹立したる趣に有之候、府縣道以下街路の改良に對する補助に就ては或は政府財政の緊縮を名として之を廢止するも甚敷不合理あるとは斷じ難く候得共、國道改良に對する補助は是等のものに對する補助と其の性質を異にし、國內の大幹線道路として國家の施設經營に屬すべきものを地方費の負擔たらしめたるものなるが故に、國家が之に關する費用を分擔する合理公平性を有するに胚胎するものなるに拘はらず、之を捨て、顧ることなく我が支出を節約するを得たりと爲すが如きは其の暴舉驚くの外無之候、財政の爲には國家は信

義公平を捨つるも尙可なりとせば即ち已む、然らずとせば信義公平に胚胎する國道費補助を廢止する如きは國家の責務を放棄したるものと言ふべく、此くして信を天下に得んとする如きは木に緣りて魚を求むるの類にして現内閣の爲に慚む所に御座候。

街路改良費の補助に在りては大正十四年度迄の既成工事に對して補助することとし、新規事業は一切補助せざることに方針を確定したる趣にして不日市長に對しその旨を通告する由に候、當局の説明に依れば十四年度迄の既成工事に對する補助額は千九百十四萬圓に達し、既に補助したる額を控除したる八百八十萬圓と此後毎年支出を要する工費に對する補助を補助豫算年額百十一萬圓を以て經理するときは、大正二十四年度に至らざらば補助を完成し能はざる狀況なるを以て、此上新事業を認むるときは採算し能はざる結果に陥るが故に已むなく叙上の手段に出でたる趣に御座候、豫算の増額を認められざる以上は此手段に出ずるの外無之こと、存候得共、之が爲に各市が既に樹立したる街

路改良事業は豫定の財源を失ふ結果と相成、従つて既定計畫を變更せざるべからざるに至るべく、市當局が從來街路改良計畫を樹立するに方り國庫補助あることを理由として、容易に市會の議決を得たるも此後は其の計畫の樹立は著しく難澁に陥るべく、従つて漸く緒に就かむとしたる街路の改良は休止の狀況に至るべくと存候、從來各市の爲す所を觀るに其の市の水道又は港灣等の施設に對しては、必死的の陳情なり運動を試るに拘はらず、獨り道路費の補助に關しては各市共通の性質を有するものなるよりして之が増減存廢に付對岸の火災視するの嫌有之、爲に財務當局の無理解を覺醒せしむる能はざる結果に非ざるかと被存、若し然りとせば今日補助の廢止を視るも亦當然と可申候。

自動車道路助成費は固より新事業とは申候もの、其の目的が晩近發達したる自動車の利用を山間僻地にまで及ぼし開發せられざる地方をして文化の進展に浴せしめ、萎微振はざる地方農村を發展せしめむとするに在るも、其餘波は失業者を救濟し都市集中都市保護の呪咀の聲を抑制して

國家の利益を均霑せしむること、相成、前者の目的が積極的助成に在りて之に要する豫算を是認することは現内閣の財政方針に反すとすも、其の餘渡たるものが國家の存立上緊急缺くべからざるものなる以上は必ずしも現内閣の財政方針に反するものと言ふべからず候、殊に失業者救済の爲には一方尠なからざる國帑を支出して緊急費用と爲しなから本豫算を否認したるが如きは現内閣の矛盾したる財政方針と評すべく候、憲政會が主として都市に地盤を有し更に手を地方農村に延べむとする今日、其の與黨の方針に反して都市に對しては街路の補助を廢止し地方農村に對しては自動車道路助成を否認するが如きを以てしては、到底與黨の發展を期し難かるべく餘り賢明なる策とは難言候、何れ此案件は此の如く無造作に埋殺さるべき性質のものに無之、代るべき賢明なる内閣は必ずや之を黨是として實現するに至るべきを以て吾人國民は此時機の到來を待つより外無之此時機を早からしむることを切望する次第に御座候。

地方豫算の編成に方りても右申述候自動車道路助成費の

趨勢に察して豫算を計上したるもの尠なからざるやに承居候、固より是等は地方交通の實際より要求されたるものなるを以て、假令政府の方針が之を否定するに至れるものな做つて故更に其の豫算の實行を見合すの必要もなかるべく、萬一此の如きこと有之候ては由々數次第に付地方長官諸君の熱慮を希望して已まざる次第に御座候、聞がが如くば本年度地方豫算の編成に方り財務大臣の劃一的整理の訓令に則り、歳出金額の數字を減少することにのみ腐心し、當然必要なる小學校教員年功加俸又は恩給等までも減額し後日に至り追加豫算を提出して辻褄を合したる地方も多々有之趣に付、自我を放棄して迎合にのみ力むる地方長官の尠なからざる今日に於て、吾人の懸念必ずしも無理ならざること、信じ呉々も無理解なき様祈る次第に御座候。

憲政會の夫れに反し地方民を煽動することに抜目なき政友會は、地租委讓問題の下火と爲りしことに心附きしものか、近時頻りに地方長官公選論を主張するに至り候、機を見ることの速なるは唯々敬服の外無之候得共、其の理由た

る頗る淺薄を極め民意尊重の今日最も人民に接近する地方長官は地方民が之を選擧するを以て當然とすと云ふに有之候、吾人は地方長官の任免が憲法上官制大權の發動に依るものなるを以て公選すべきに非ずと言ふが如き愚論を爲すものに無之、民意の尊重固より可なるも之が爲に何が故に公選する實際上の必要あるかを究め度候、現在地方長官が地方行政を執行するに付最も苦心する所のものは府縣會議員の專恣横暴に有之、我が要求を容れずむば警察上の機密費を削減すと脅し、或は地方長官の理想とする新事業を削減するが如きは殆ど常例と言ふも誤なき狀況に有之、是等に對しては固より救済の方法有之候得共、其の方法に依ることが著しく地方長官の權威に關するを以て之を爲さず、遂には妥協の手段に依つて泣きやむの現況なるを以て若し之を公選するの制度とせば地方長官は選擧されたる黨派の顯使する處と爲り、遂に其の行政は一黨一派に偏倚することを免れざること、相成、到底圓滿なる行政を觀る能はざるは明かに御座候、或は現在の市長が公選にして市政を執

行し何等の不都合を來さざることを引證するもの有之候得共、市吏員の如きは市會議員の鼻息を伺ひ命唯だ是れ從ふの有様にして硬骨の士が市に入るを嫌忌することに徴しても市政の内情を知ることが得べく、市政に此事ある尙想すとすると地方長官の職務は市長の夫れと異り、國政事務大部を占むるが故に之を執行するに方り一黨一派に偏することあらむか獨り一地方の問題に止まらずして意外の結果を惹起すべきは想像するに難からざる所に御座候、近時民衆政治を説く者往々にして民衆が直接に政治を執行することと履き違ふるもの有之、是等の議論も竟畢するに此誤に座するものに非ざるかと存候、行政の局に方る者固より民衆の要求に聽き福利の増進に力めざるべからざるは當然のこと候得共、之を爲すことは専門家の手腕に俟つの要あるを以て吾人は公選論を排すべく、是等時代に適應せざる意見をも提出して地方民の歡心を買はむとする政友會を憫むものに御座候。

大手町の電車の乗換を利用して内務省の景氣を覗き候處

いつも消極的政策を採る内閣のときは地方局多忙を極むるの例に漏れず毎日局長室に會議を開き居候、局員の語る所に依れば實現疑はしき案件さへも行政調査會の審議に附せざるべからずして之が爲に主管外の事務激増したるに加へ税制の整理府縣制市町村制の改正、郡役所廢止善後策と次から次へ繁忙を極め、毎日午前中は會議と定め事件の進捗に力め居候趣、御苦勞の義とは存候得共、效果の擧りざる事に對し苦勞する程馬鹿らしきものは無之、郡役所廢止の如きは夫れに有之候、當初内務省は郡役所廢止の爲に要する地方廳經費九百萬圓を要求したるも、財務當局は従前國費支辯に屬したる郡長に代るべき地方事務官二百七十三人の經費を國が負擔すべきものと爲し、之を九十六萬圓に査定したる趣にして國費に於て五十六萬圓の節約を觀るに至り候得共、他は總て地方費の負擔に屬せしめたるが爲相通じて幾何の節約と相成べきや難計、萬一若干額を節約したりと爲すも事務執行上に於ける不利不便は多大なること、被存候、大藏省の査定方針を以てするときは一層事務執行

上に障礙を生ずること、相成、之が爲に關係各省の局長連が地方局長室に於て鳩首協議致居候、新任局長を得たる警保局は無產政黨事件に關し近來になき成效を逐げ、局長を詰問すべく詰め寄せたる無產黨創立者連中をして、吾々は如何に爲すべきかとの嘆聲を發せしめたるやに承り居、局長の成功と局長をして茲に至らしめたる書記官に深甚の敬意を表すべく候、唯是れ消極の時に方り事業本位の土木局に活氣のあるべき道理無之、四五の地方官吏が水害復舊工事の査定用務の爲め出頭致居候位のものに有之何となく寂寞を感じ申候、衛生神社の兩局に至つては明治神宮競技の後始末に忙殺され居る位にして是亦活氣なき様見受けられ年末の賞與も亦之と同様の趣にして省内は近年に珍らしく活氣を失し居候、年内のこと、をも追想して申述度幾多の事件を持ち居候得共、是等は新年誌上に於て筆を新にすること、し、讀者各位が目出度越年せられむことを祈り是にて擱筆致候

敬具